


Wedding Night

R18
ADULT CONTENTS
INCLUDE
ONLY



*Wedding
Night*





こんにちは、あめいろの七色です
この本をお手に取って頂きありがとうございます！

今回の本は6月に出した結婚本「しあわせなわたしたち」の
続きでゆきリサ初夜本になります
結婚ときたら次は初夜を描くと決めていました…！！
前の本を読んでなくてもわかるようにはできてると思いますが、
事前に読んで頂けるともっと楽しめるかと思しますので
ぜひ合わせて読んで頂けると嬉しいです(笑)

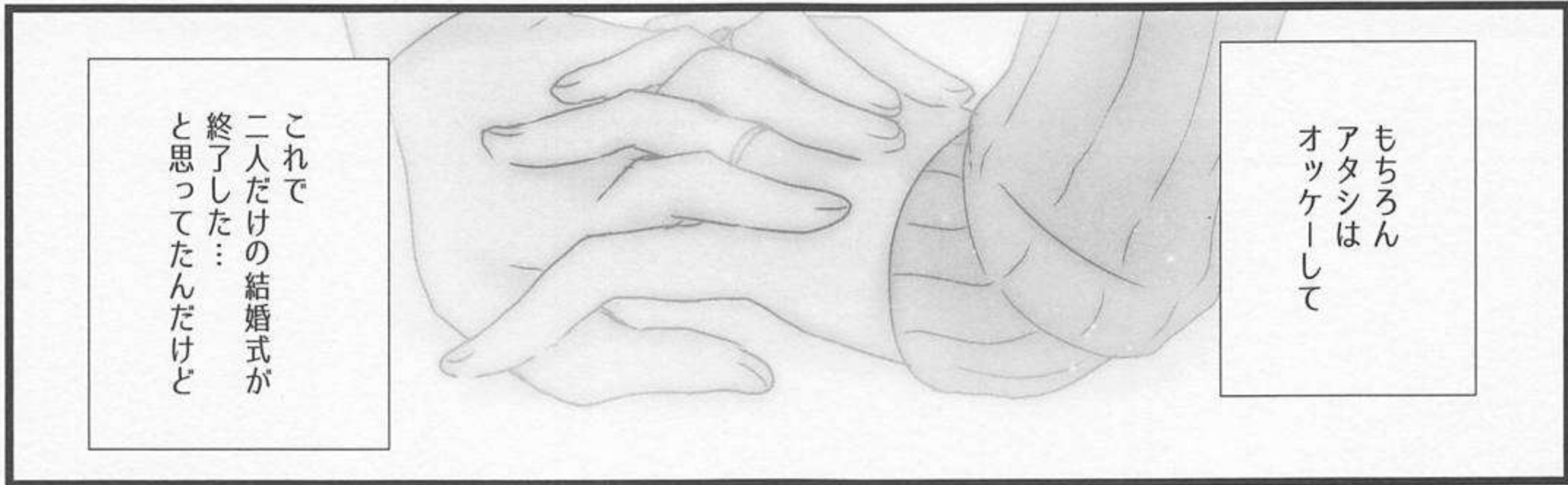
前回ゲストでSSを書いてくださったキッドさんが
また今回も書いてくださっています♪
そちらもぜひお楽しみくださいませ～
ではまた後書きにてお会いしましょう！



始まりは
友希那がアタシに
指輪をくれて



「ずっと一緒に
いて欲しい」って
言ってくれて



もちろん
アタシは
オツケーして

これで
二人だけの結婚式が
終了した…
と
思ってたんだけど



大好きな
Roseliaのメンバーに
隠し事したく
なかったから

みんなに
今までのことを
話したら
祝福してくれて

後日なんと
隣子が二人分の
ウェディングドレスを
つくってくれて

式場を
紗夜とあこが
選んでくれて



アタシたちは
晴れて結婚式を
挙げる事ができた

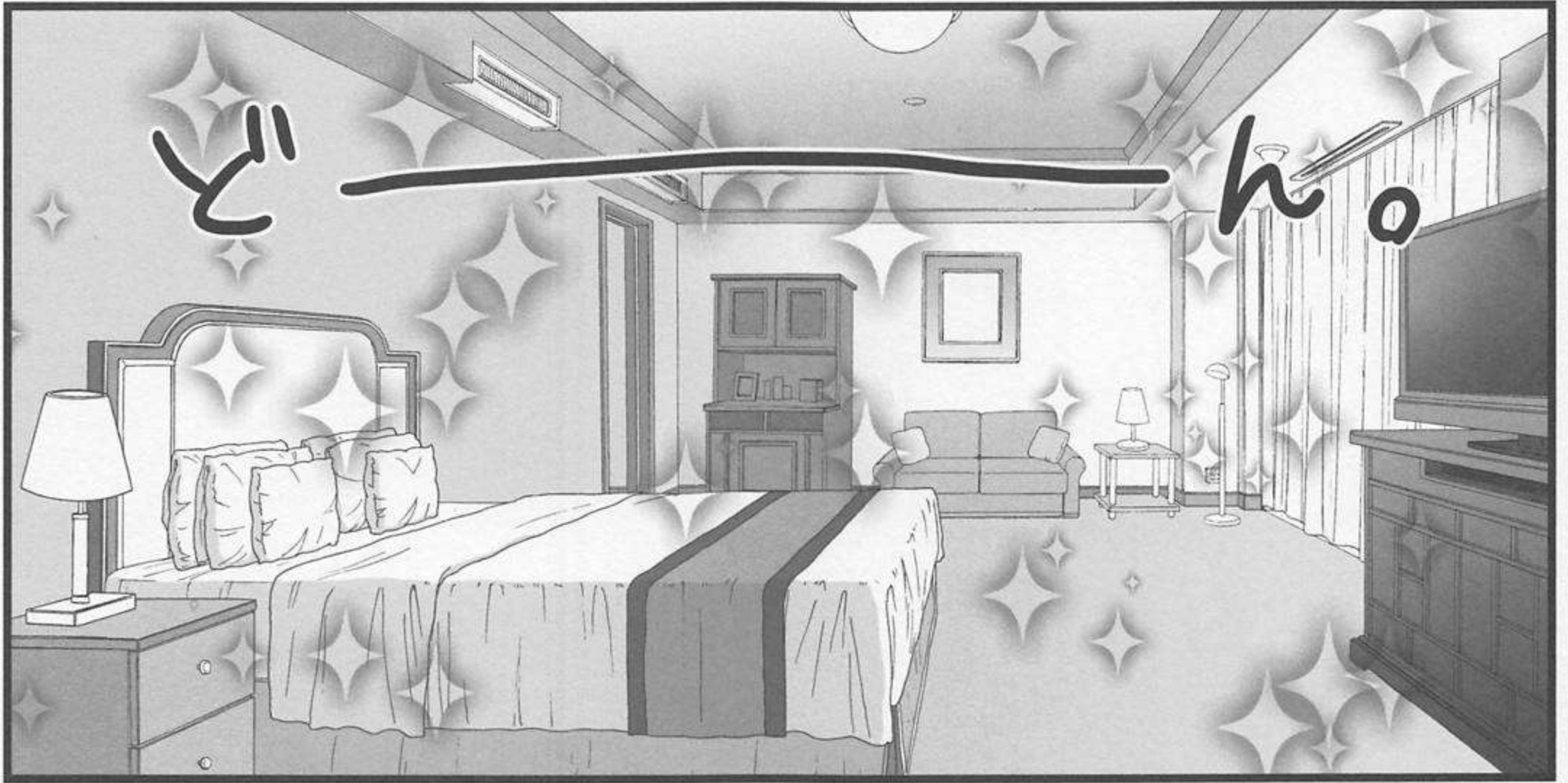


そして
さらに…



式場のホテルの部屋
とってあるとか

準備よすぎ
じゃない…？



ど

んの



せっかく
用意して
もらったのだし



すーいーねん...

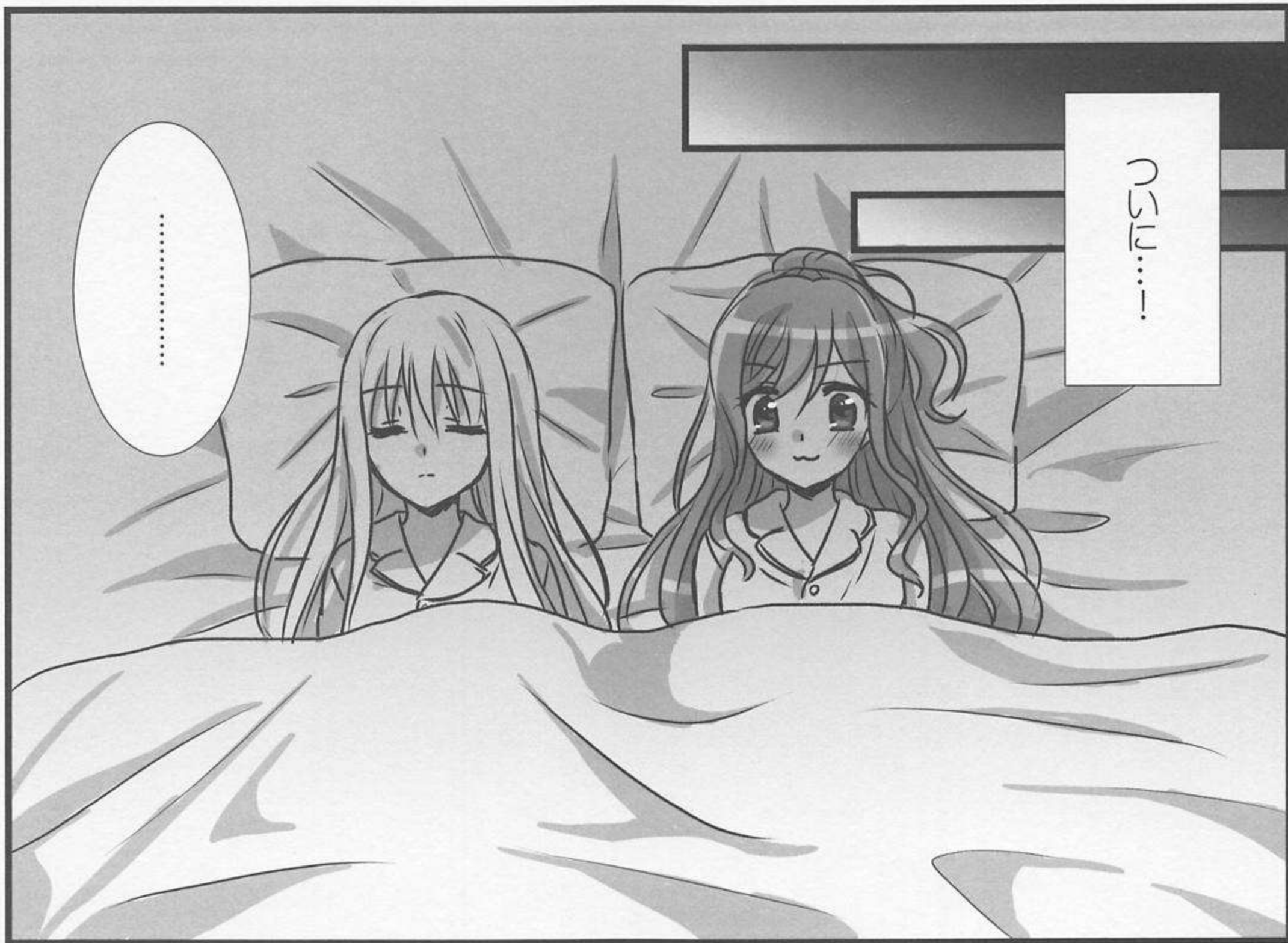
いいのかなあ
こんなにして
もらっちゃって...

いいんじゃ
ないかしら



ゆっくりして
いきましよう









このまま
あなたを
抱いていい？



すきっ...



...うん



大切にしたいの

結婚して
初めての夜...
初夜、でしょ？

友希那
わかってたんだ...



ツミ

カ

あっ



…しよ？

いせう

ちゅ

い

ちゅ

んんん



いせう

いせう

は

いせう…んんん



いせう

いせう

ちゅ

いせう

友希那
すき…

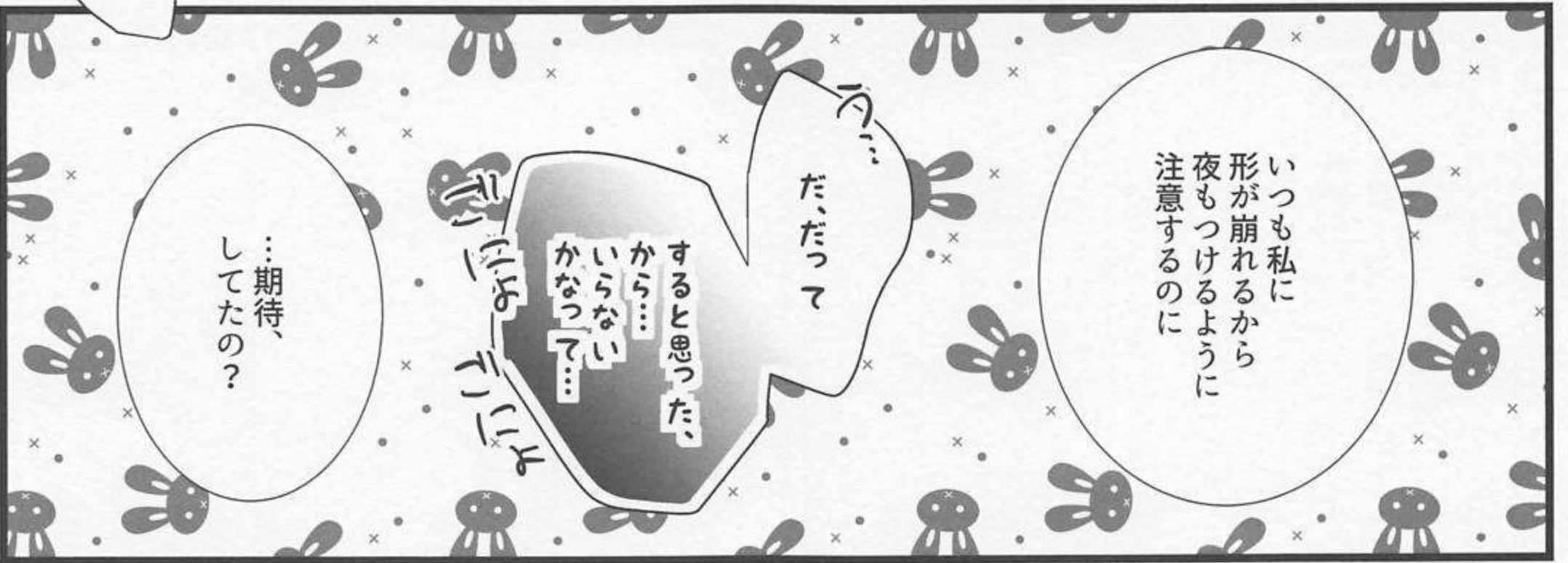
ちゅ

ちゅ

すき
いせう…

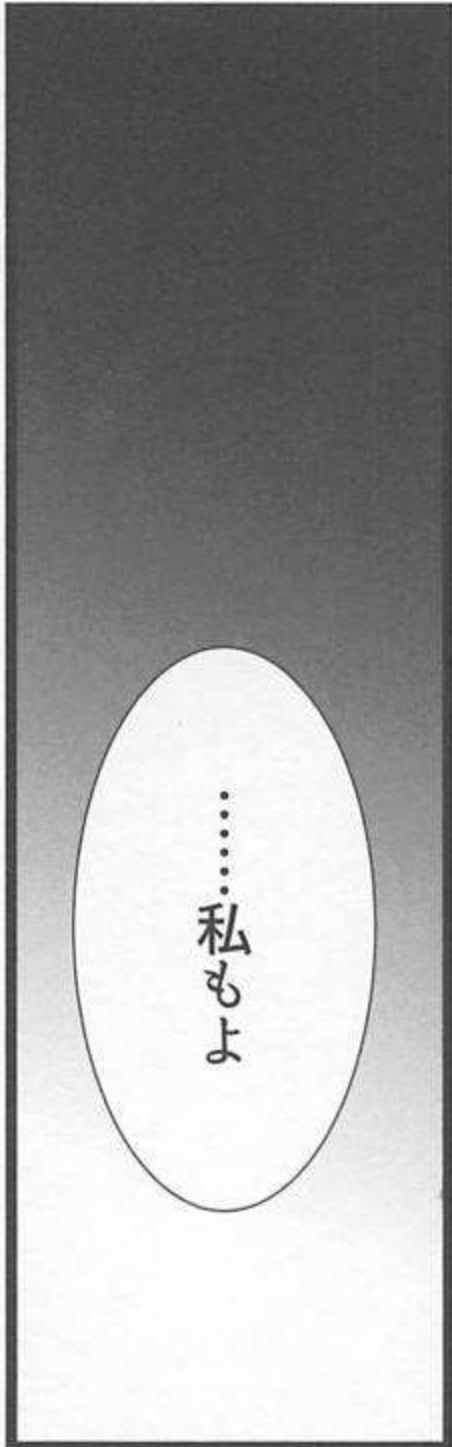
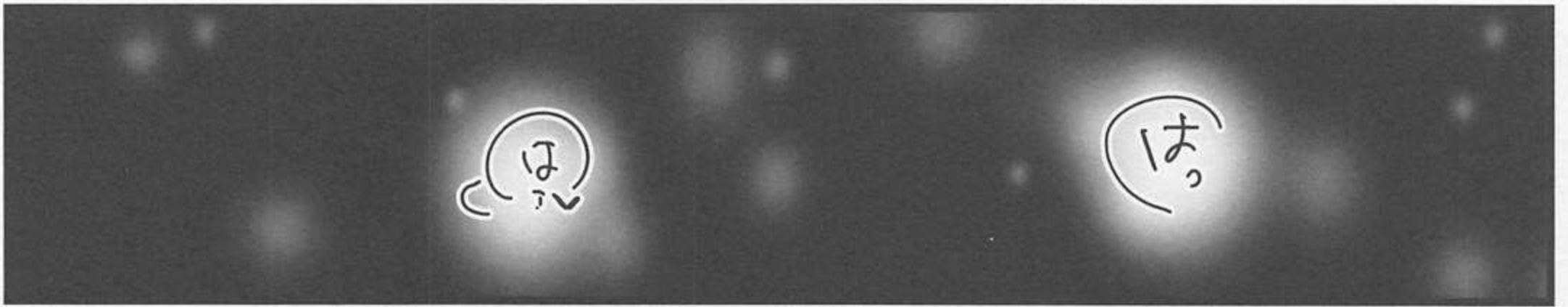
いせう

いせう

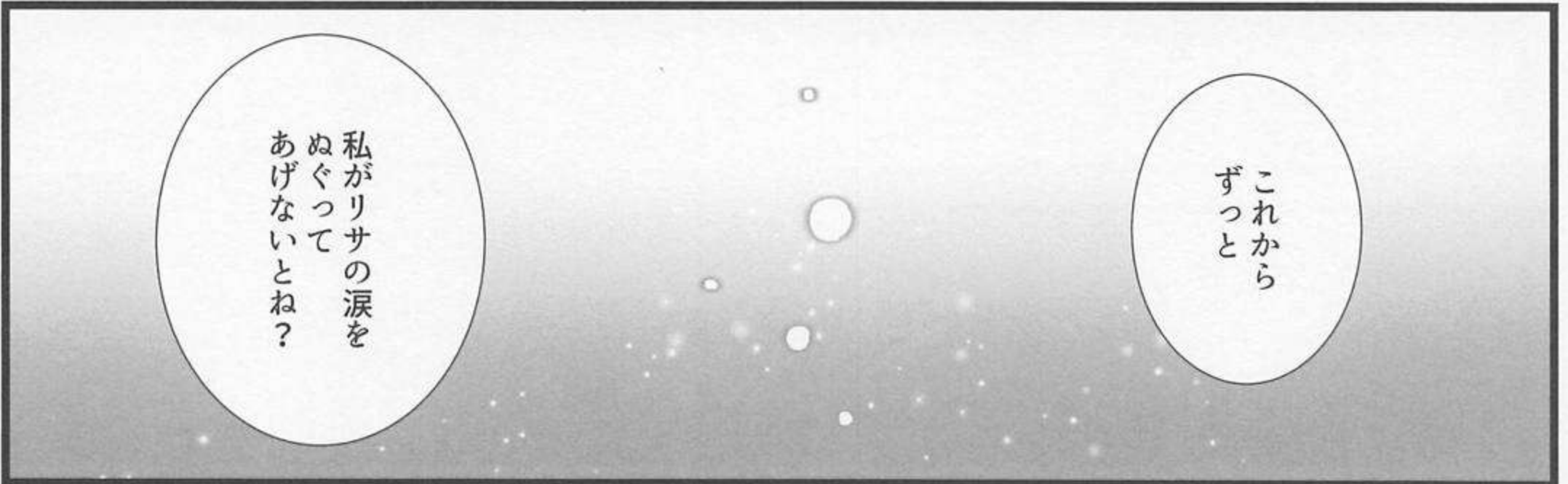












…これからも

ずっと
一緒なんだね
アタシたち



帰る場所は愛しい陽だまり

キッド

魂には帰る場所があるという。
それならば、私はきつと……

「うー、びしょびしょ……」

「すっかり降られてしまったわね……」

ボタン、と玄関のドアを閉める音が廊下に響く。

ついで私とリサの言葉に合わせるようにポタポタと髪から服から、水滴が落ちては玄関を濡らしていく。

二人で出かけていた休日の午後は生憎の雨模様だった。

出かけるときは晴れて暖かかったというのに、あつという間に曇ったかと思うとすぐに雨が降り始めて私とリサは家まで走ることを余儀なくされた。

幸いだったのはすでに帰宅中だったことと、家までの距離がさほど無かったことくらいだろうか。

「ここまでびしょ濡れになっていることを思うと幸いと云っていいのかは微妙なところかもしれないけれど。」

「うーん、玄関の掃除、は後でするしかないよねえ……」

「それもだけれど、フローリングもリビングも濡れるわね」

だよー、と困ったように笑うリサに私もつられるように苦笑する。

新築のマイホーム。

以前から準備はしてはれて先日、挙式をすませた私とリサが移り住んだ新居である。

ぺたぺたと濡れたまま歩く廊下はフローリングで続くリビングもそうなので、カーペットよりは掃除が楽でよかったね、とリサと二人で笑いあう。

「まあ掃除は後でするとして……今お風呂沸かしてるから、ちよつと待ってね友希那」

「ええ、分かったわ。ねえリサ……ぶっ」

「ほらほら、早く拭かないと風邪ひいちゃうよー?」

「んふ、ええ、それは分かって、んっ、……自分で拭けるわ、リサ」

テキパキとお風呂の準備と、タオルを持ってきてリサは私の頭に向けた。

別に拭かなくてもいいのよ、と言えばアタシがしたいの、とリサに押し切

られて結局私の体や髪はリサが、反対にリサの体と髪は私が拭いていく。

放っておくとリサは自分のことは後回しにしてしまうから。

そういうところは、一緒になっても変わっていない。

仕方がないわね、と私が言えば構われるのが嬉しいのか、リサは私に拭か

れるがままくすぐすと私の腕の中で身をよじる。

……私の伴侶はそういう人だ。

なんでもないようなことに一つ一つ喜んで、感情をまっすぐに伝えてく

れるところが可愛らしい。

「……冷えてるわね」

「そうだねえ……」

リサがしてくれたように髪を拭いたら、首を拭って、タオルを肩にかけて

……冷えた指先を握ってリサの体を抱き寄せた。

暖房を用意するにはまだ早い時期。お風呂が沸くにも少しかかる。

「友希那? ……んっ」

「リサ」

だからそう、仕方がない。

体を温めるには人肌がいいと遭難時のマニュアルにもある、かもしれない。

遭難はしていないけれど、私もリサも体が冷えていることには違いない。

このままでは揃って風邪をひきかねないのだから、そう、仕方がない。

「友希那がエッチだ」

「ええ、そうね。……私だって服が透けた妻の体に欲情くらいはするわよ」
「それも、ほんとに遭難どうのとか関係ないよね……んあつ」

悪いかしら、と言えはふにやりとりリサが笑って、んーん、と首を振るからそれでいいことにしてリサの体に触れていく。

昔よりは幾分露出が減ったけれど、リサの服装は基本的に軽装が多くて脱がしやすい。腰を撫でて首筋に吸い付きながらシャツのボタンを外せば、リサは自分から脱ぎやすいように体をずらす。

ゆきな。甘く溶け始めたリサの声にくらりとする。

触つて、と言うようにさらけ出された素肌に指で、唇で触れていく。

「ふあつ、ゆき……んんっ」

「……リサは、どこに触れても甘いわね」

指先で感じているのか、舌先で感じているのかは定かではないけれど、私にとつてリサは体も声も全てが甘い。

もつと聞きたい。もつとほしい。

脇腹となだらかなお腹をくすぐるように指を這わせて、胸の先を舌で舐る。

甘い声。甘い体。……私は、甘いものが好きだ。

「やつ、そればつか……あつ、ゆきな」

「好きでしょう？」

「すき、だけどお……ふあつ……」

その胸の柔らかさを堪能するのも好きだけれど、胸の先の方がリサは好きだと知っているから自然と私もそこばかり触れてしまう。

触れて、舐って、時折甘噛みをすれば一段とリサが甘くなる。

私のリサ。可愛いリサ。

「ゆきなっ………した、も、さわってよお……」

「っ……ええ、そうね」

そうしていれば我慢できなくなったのか、リサの可愛いおねだりに私にも熱が広がる。

揺れる腰から足にかけてスカートとショーツを取り払えば、そこはすでに十分に濡れて私に触れられるのを待っていた。

少しだけ、撫でるように外に触ればそれだけでリサの腰が大きく跳ねる。

「十分に感じているようだけど」

「やだ、ゆきなっ、ちゃんと……あつ」

「どこに？」

「っ……な、か……」

「ほしいの？」

「ほし……ゆきなっ……ふああつ！」

「っ……熱いわね」

滑らせるだけで指先に蜜が絡んでリサが体を震わせるから、つい意地悪をしなくなる。

それでもねだられれば与えてしまうのだから、余裕にはほど遠いし、私も

大概リサに甘いということなのだろう。

抵抗もなくするりと侵入を果たした指先はリサの熱に迎えられる。

指一本でさえこんなに締め付けられるのに、拒まれているように感じる」とはけしてない。

奥へ、もつと。

リサは全部が正直だ。

「あつ！ ゆきなっ、そこ、だめっ……！」

「弱いものね」

「ふあつ、そ、だつて……ばっ……ああつ！」

「まだ一本よ？」

ぐっとお腹側を押しながら中を擦れば容易くリサは腰を震わせる。

でも簡単に気をやられるのはもったいない。

だからするたびに顔を出す意地悪な私は、いつもイかないぎりぎりの刺激を与えてはリサの反応を楽しんでいる。

燃え上がるようなそれも好きではあるけど、私はどちらかと言えば出来るだけ長くリサを堪能したい。大抵こういう時のリサは、私に抱きついたまま体と声を震わせるから。誰よりも近い場所で、誰にも見せない、聞かせないリサを私だけが享受する。

「あつ、あつ！ やあつ……きゆうに、ふえつ……あつ、んあつ！」

「美味しそうに飲み込んでいるじゃない」

「だって、ゆきながつ、さ、わるか、らあつ……！」

「……本当に、どうしてそう煽るのが上手いのかしら」

「知らなつ……ああんつ!!」

一本できつかった中は増えれば増えた分だけ締め付けられる。

フローリングはとうに雨以外の、リサから溢れた蜜で濡れている。

これ以上ないくらい分かりやすい反応に、応えるべく私も指を動かしていく。擦って、突いて、かき混ぜる。そのたびにリサの蜜が絡んで溢れてフローリングを濡らしていく。

揺れて逃げようとする腰は捕まえてしまつて、離さない。

「ああつ！ んつ、うんつ、ゆ……きな、ゆきながつ……！」

「そろそろかしら？」

「う、んつ……あつ、ゆきなあ……！」

沈めた指はそのままにリサの首筋に舌を這わせる。

反応して仰け反るようにさらされる白い喉に吸い付いて、少しだけ歯を立てる。そのたびにリサの中が締まるのだから、つい私がリサの首筋や鎖骨のあたりに所有の証をつけてしまうのも仕方ないことだと思う。

「ゆきなつ、ゆきなつ……！」

声が聞こえる。甘い声で、私を呼ぶ。

いく時の合図。リサは私の名前を呼びたがる。

「リサ、リサつ……！」

「ゆきな、あつ、ゆき、ふあつ、んつあつ、イツ……ああつ……!!」

応えるように中を突いて胸元に歯を立てて、外を親指で押しつぶしながら擦りあげればついに一際高い声をあげてリサが果てた。

痛いくらいに締め付けられる指も、しがみつかれた背中も、立ち昇る香りも、何もかもが甘い。何度味わっても、私はまた求めるだろう。

荒い呼吸を繰り返すリサが、息も整わぬまま私の首に腕を絡める。コツンと、おでこがくつついて。……ふにやりといつもの顔で私に笑った。

胸を満たす想いの名前は、きつと幸福というのだと思う。

◇

「んー、あつたかいね〜♪」

「そうね」

ぽかぽかする、あつたかい。上機嫌でそうこぼすリサにまたそうね、と答えて私に抱きつく背中を撫でる。

ようやく沸いたお風呂に二人で浸かる私とリサ。私たちの邪魔をするようにピーツと鳴った給湯器には多少なりともムツとしたものだけど、この温かさには抗えない。

行為の熱はあつても、汗をかいた分きちんと温まらなければそれこそ本当に風邪をひきかねない。

「掃除も待ってるしねえ……」

「……そうかしら」

「うわ、ずるい、そこはそれこそそうねでしょー？」

ていうか半分は友希那のせいじゃん。半目で睨まれても怖くはないけどあつさりと溺れてしまった手前、反論ができない。

行為に及んだリビングは中々の惨状だ。

仕方がないことだった。リサという甘味を目の前に、私に我慢など出来るはずもない。

「なんかアタシ友希那のおやつっぽいねそれ」

「むしろ主食ね。ないと困るわ」

やっぱり食べるんじゃない、と苦笑するリサを、好きでしょう？と抱き寄せた。触れ合ったところが温かい。

物理的なものとどまらない、私を、湊友希那を形作る確かな温もり。私の陽だまり。

……そうしてふと思い出した。魂には、帰る場所があるという。

「え、何か怖い話？」

「違うわよ」

多くの場合それは思い入れの強い場所であつたり、大切な人のそばであるのだという。分かる話だ、と思う。

昔の私であつたならそんなことは思わなかったかもしれない。

もしくは考えたとしてもその頃の私は全てが歌に帰結していた。

私が還るなら音楽の中にだろう。

それはある意味では今もさほど変わっていない。

一日の大半を音楽に費やし、作詞と作曲、歌唱等の違いはあれど、音に関わらないということがほぼありえない。

むしろ学生の時分よりも勉強に煩わされることが減った分、音楽漬けになつたともいえなくはない。

「言うほど勉強はあれだったよね、友希那……」

「……赤点は取らなかつたわ」

「そういう問題かなあ……」

そういう問題だった、少なくとも私の中では。

学ぶ事自体は嫌いではないけれど、私の中で重きを置けない以上身が入らないのは仕方のないことだった。

居場所を掴むまで、そしてそれを自覚するまで、本当に私には歌しかない、歌うしかできないと思っていたのだから。

……だけ。

「友希那？ ……わっ」

「……リサ」

陽だまりがあつた。ずっと傍にいてくれた。

知っていたのに知らないふりをして何度も傷つけたのに、私の傍にいてくれた。それがどれだけの救いをもたらしてくれたのか、きっとリサには

分からないし、もつと言えれば私自身大きすぎて未だに理解していないのかもしれない。

もらつてばかりいた私だから、一つだけ決めたことがある。

私は、音楽にいつか還る。

「けれど……私が『帰る』場所は、あなたのところよ、リサ」

他の誰でもない、私がした約束だ。

たくさんのものを捧げてくれた彼女を、リサを、一生をかけて幸せにする。大切な人。私の陽だまり。私の言葉にみるみるうちに表情が崩れてふにや

ふにやになっていくリサを私は心から愛しいと思う。

傍にいてくれてありがとう。愛してくれてありがとう。

「愛しているわ、リサ」

帰る場所は愛しい陽だまり。

貴女がくれたたくさんのものをこの場所で、今の貴女と、また紡いでいく。

Fin

quest comment

今回も引き続きゲストにて参加させていただきましたキッドです、ごきげんよう☆
以前のうん年かぶりの肌色成分に続き
今回も肌色ありなSSを書かせていただきました!(笑)
初夜本で友希那さん攻め、と聞いていたので私もがつり友希那さん攻め…
と思つたらなんかほわほわした新婚さんの話になりました。
いや、初夜は七色さんが描いてるし、そしたら私は新婚かなあ、て。
相変わらずR18が不慣れなので迷走しましたが、
ぶきつちよだけどりサ姉を愛してる友希那さんをお届けできていたらいいなと思います。
(一応前回の六月のラブソングの続きのイメージで書きました♪)
七色さん今回もお誘いありがとうございました!締切ギリギリでほんとごめん(;▽;))
また機会がありましたら懲りずに是非(笑)
皆さんにも新婚リサゆきちゃんをお楽しみいただければと思います♪
ありがとうございました-♪ (*´▽`*)

The Earth ~この大地を踏みしめて~/キッドさん

<http://kidnooheya.web.fc2.com/>

<http://pixiv.me/kid0923>

kid_and_kanako_kidnooheya@yahoo.co.jp

twitter : @kid_yuuki_sato

ここまでお読み頂きありがとうございました!
キッドさんもお忙しい中書いて下さり本当に感謝です!
貴重なR18で甘タイチャイチャで最高ですね♥
萌えの秘孔を突かれまくって萌死しそうです…w
幸せ補給に何度も読み返します!(まるで麻葉w)

バンドリのおかげでライブやコラボ系で外出の機会が増えたり
同人も描いて楽しく過ごしています、主にキッドさんと(笑)
やりしいとあけさんの引退はマジで辛いですが…!

そういえばリサゆき本だけでいつの間にやら5冊目でびっくりw
合同誌含めると6冊を8カ月で出してますね…
これからも描いていきますので
ぜひまたの本でお会いできますように!





Wedding Night

2018/10/07

Ameiro/Nanashiki

<http://ameiro7.blog2.fc2.com/>
ameiro7-nanashiki@yahoo.co.jp
twitter : @nanashiki_ame

Printed by 金沢印刷様



BanG Dream!
Girls Band Party
Fan Book

YUKINA x LISA

AMEIRO presents